

# 「介護福祉士実習指導者講習会を踏まえた自職場におけるアンケート調査」

一般社団法人 富山県介護福祉士会

## 1. アンケート実施の目的

平成 29 年度に介護福祉士養成課程のカリキュラム改正が行われ、令和元年度より新カリキュラムが導入されることとなった。新カリキュラムの「教育内容に含むべき事項」および「留意点」を踏まえた介護実習を実施するためには、介護実習指導者をはじめとする関係者がこの内容を理解するとともに、養成校の教諭・教員と実習生を受け入れる施設・事業所が適切に連携し、適切な受入体制をもって対応することが求められる。今回のアンケート調査では今年度介護実習指導者講習会の受講生とその上司（管理者）を対象に、研修を受け具体的にどのような取り組みや介護実習指導等を行なったかを把握し、研修の効果等を検証するための効果検証等を行う。

## 2. 実施期間

・令和 4 年 8 月 1 日～12 月 31 日

（令和 4 年度介護福祉士実習指導者講習会開催日：9 月 15 日、9 月 28 日、10 月 5 日、10 月 26 日）

## 3. アンケート調査対象者

・令和 4 年度介護福祉士実習指導者講習会受講生とその上司（施設・事業所管理者）

## 4. 実施方法

介護福祉士実習指導者講習会 3 日目に研修受講開始時のアンケートを配布し、受講生に回答してもらおう。4 日目に回収し集計、それを基に第 2 弾のアンケートを作成し、受講生とその上司（施設・事業所管理者）に回答してもらい回収、集計、分析する。

## 5. 分析方法

アンケートの内容は、新カークパトリックの 4 段階評価法<sup>1</sup>を参考に作成し、その後、単純集計、グラフ化、自由記述の分析をし、相互の関係性も読み解く。

## 6. 回収率

第 1 弾のアンケートは研修開催中に回収したこともあり、100%の回答率となった（10 月 5 日配布、10 月 26 日回収）。第 2 弾のアンケートは 11 月 30 日に郵送、12 月 16 日到着締め切りとし、回収率は受講生アンケートが 56.5%、管理者アンケートは 58.6%であった。

---

<sup>1</sup> 「新カークパトリックの 4 段階評価法」

・研修開発入門「研修評価」の教科書 中原淳・関根雅泰・島村公俊・林博之著  
ダイヤモンド社 2022 年 5 月 31 日 第 1 部 3 章

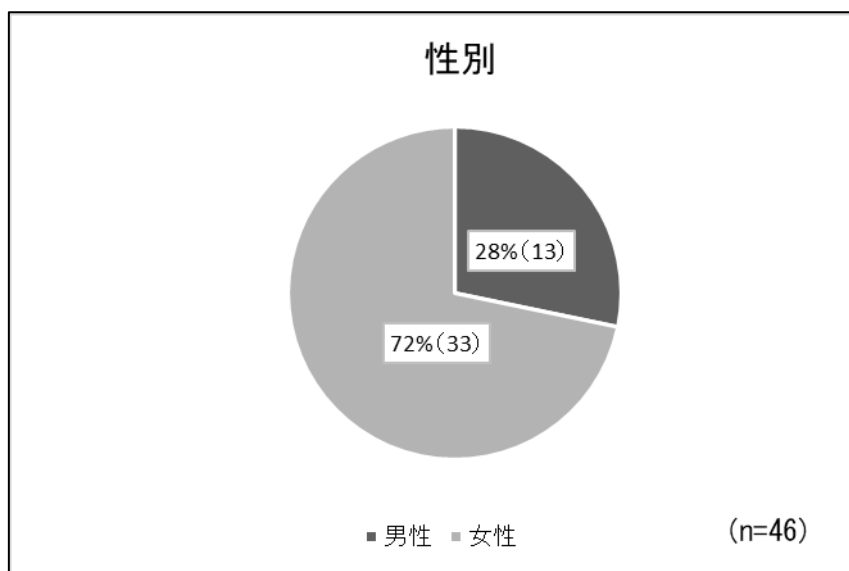
## 7. 受講者アンケート結果 第1弾（受講開始時）

第1弾のアンケートは介護福祉士実習指導者講習会3日目（10月15日）に配布し、4日目（10月26日）に回収した。全受講者から回答を得ることができ、回収率は100%であった。

### 7-1 基本属性

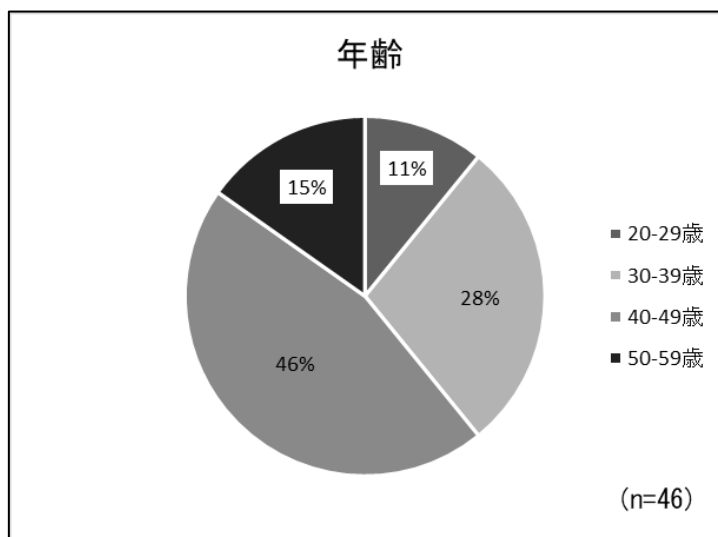
#### (1) 性別

男性は28%、女性は72%であった。



#### (2) 年代

40～49歳が最も多く、全体の46%に上った。

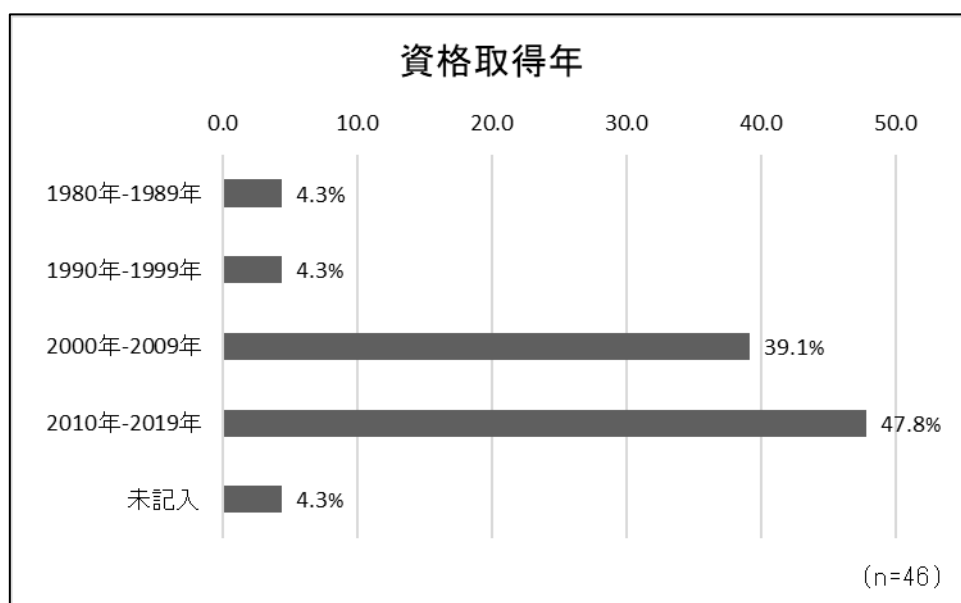


以下の表は、年代を男女別で一覧にしたものである。全体としては40～49歳が21名で最も多く、次いで30～39歳が13名であった。男女別では、男性は30～39歳が7名で最も多く、40～49歳が5名で、全体の傾向とは異なる結果となった。

年代	性別		計
	男性	女性	
20-29歳	1	4	5
30-39歳	7	6	13
40-49歳	5	16	21
50-59歳	0	7	7
計	13	33	46

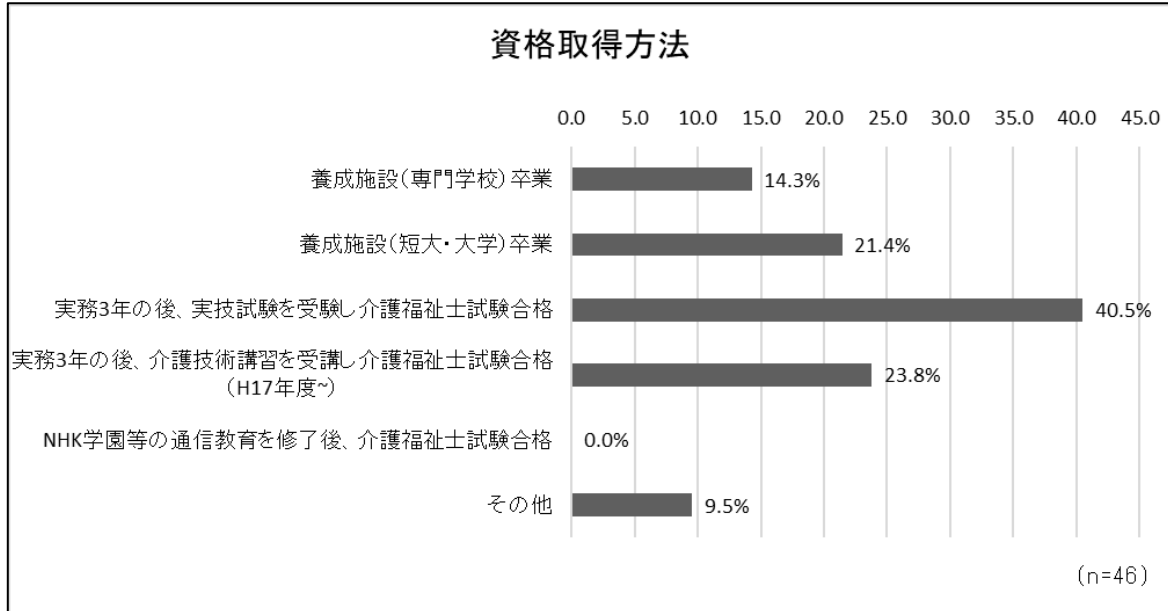
### (3) 資格取得年

2010年～2019年に取得した人が47.8%で最も多く、次いで2000年～2009年が39.1%であった。



#### (4) 資格取得方法

実技試験を受験し、介護福祉士試験に合格した人が40.5%、介護技術講習を受講し介護福祉士試験に合格した人が23.8%であった。実務3年を経て取得した人が最も多く、全体の64.3%に上った。また、養成施設を卒業した人は、専門学校が14.3%、短大・大学は21.4%であった。



#### (4) - 1 福祉系高等学校の卒業について

こちらの設問は、上記の設問(4)で、「実務3年の後、実技試験を受験し介護福祉士試験合格」と「実務3年の後、介護技術講習を受講し介護福祉士試験合格(H17年度～)」に該当する人のみ回答を求めたものである。

福祉系高校卒業と回答した人は0名で、全員が「いいえ」と回答した。

	はい	いいえ	未記入
実務3年の後、実技試験を受験し介護福祉士試験合格	0	16	1
実務3年の後、介護技術講習を受講し介護福祉士試験合格(H17年度～)	0	7	3
計	0	23	4

(5) 所属先のサービス種別

サービス種別は、「特別養護老人ホーム」が18名で最も多く、次いで「介護老人保健施設」が8名であった。なお、その他には、看護小規模多機能型居宅介護や就労継続支援B型、介護医療院など、設問には無いサービス種別の回答があった。

種類	人数
特別養護老人ホーム	18名
介護老人保健施設	8名
認知症対応型生活介護（GH）	1名
小規模多機能型居宅介護	2名
老人デイサービスセンター	5名
障害者支援施設	1名
障害福祉サービス事業所	0名
知的障害児施設	0名
重症心身障害児施設	1名
救護施設	0名
病院	4名
その他	6名
計	46名

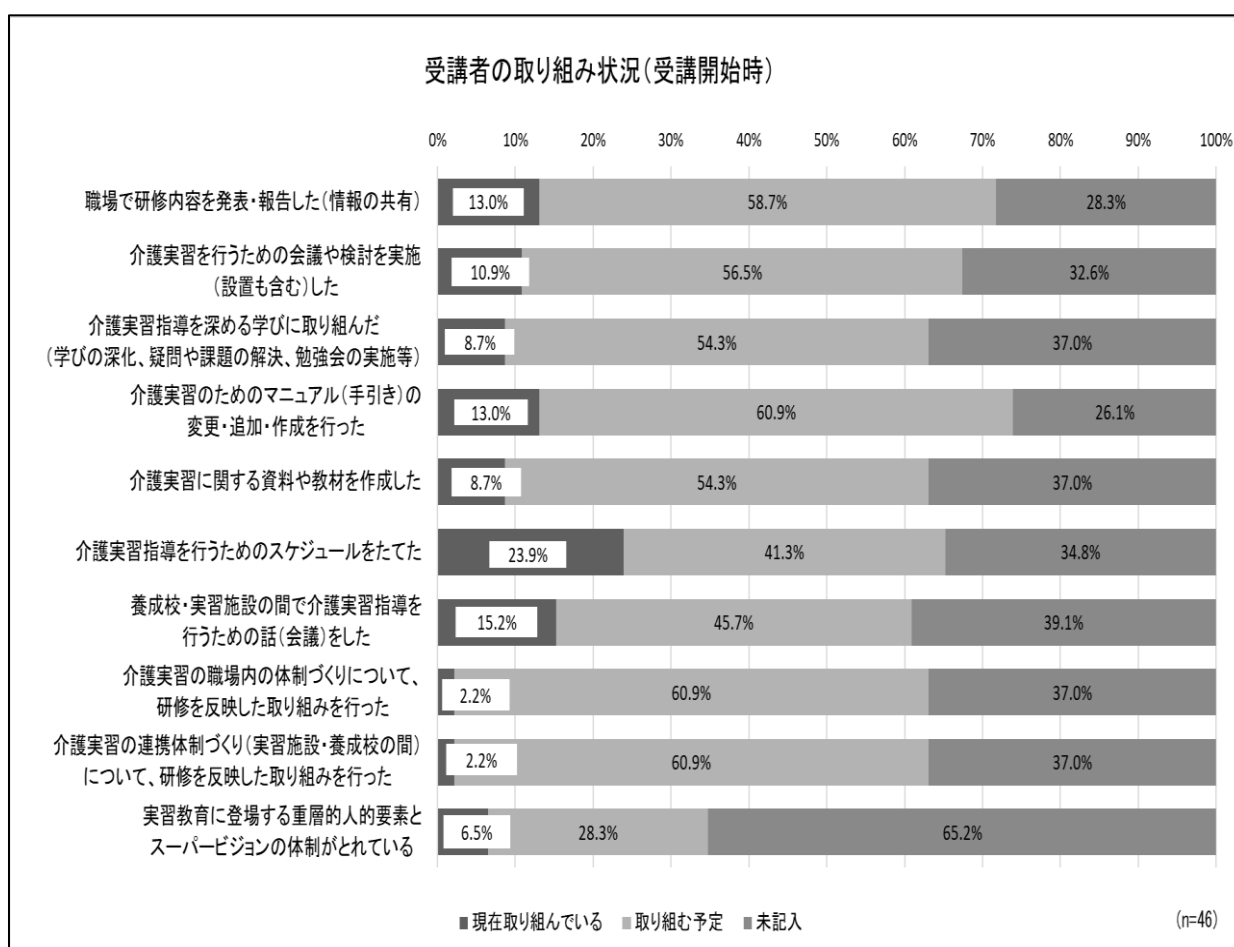
## 7 - 2 介護実習指導についての取り組み状況、または予定について

※設問 10～14 は受講後に回答する項目のため回答は求めていない。  
 ※各設問に対し、「具体的な内容」の記載も求めた（後述）。

以下項目について、現在取り組んでいるか、これから取り組む予定があるかを尋ねた。

「現在取り組んでいる」と回答した割合が大きかったものは、「介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた」が 23.9%、「養成校・実習施設の間で介護実習指導を行うための話（会議）をした」が 15.2%であった。

また、「取り組む予定」と回答した割合が大きかったものは、「介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組みを行った」「介護実習の連携体制づくり（実習施設・養成校の間）について、研修を反映した取り組みを行った」で、60.9%であった。



### 7 - 3 具体的な内容（現在取り組んでいること）

「現在取り組んでいること」と回答があった中で、内容の記載があったものを項目ごとに示す。

#### ① 職場で研修内容を発表・報告した（情報の共有）

- ・研修で学んだ事、重要な点を明確にし、書面にて報告している。

#### ② 介護実習を行うための会議や検討を実施（設置も含む）した

- ・「介護・教育委員会」を設置し、月1回会議を行っている。
- ・実習生受け入れ前に、会議を行っている。

#### ③ 介護実習指導を深める学びに取り組んだ（学びの深化、疑問や課題の解決、勉強会の実施等）

- ・研修の参加。
- ・テキストの読解、資料の見直し。

#### ④ 介護実習のためのマニュアル（手引き）の変更・追加・作成を行った

- ・指導マニュアル、実習プログラムの作成と見直し。
- ・介護のしおり、介護実習のしおり。
- ・作成してからかなり月日が経っていたので、数人で見直した。

#### ⑤ 介護実習に関する資料や教材を作成した

- ・1日の流れや施設紹介などの資料を作った。
- ・サービス種別の特徴を資料として提供した。

#### ⑥ 介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた

- ・タイムスケジュールを作成した。
- ・実習プログラム。
- ・プログラムシートを活用している。
- ・学校からのチェックリストを基にスケジュールを立てている。
- ・各フロアの日程や担当者の調整、実習内容（入浴・排泄・食事介助）を決定している。

#### ⑦ 養成校・実習施設の間で介護実習指導を行うための話（会議）をした

- ・研修内容の話をした。
- ・事前訪問で聞いた話を担当職員と話し合った。

⑮実習教育に登場する重層的人的要素とスーパービジョンの体制がとれている

- ・医療的ケアが必要な利用者に対して、看護師や栄養士と連携、情報共有を行っている。
- ・多職種との連携を行っている。

7 - 4 具体的な内容（取り組む予定）

「取り組む予定」と回答があった中で、内容の記載があったものを項目ごとに示す。

① 職場で研修内容を発表・報告した（情報の共有）

- ・研修記録や研修報告を作成し提出予定。
- ・4日間の研修後、学んだことをまとめ、発表の場を設ける予定（ICFを重点的に）。
- ・介護実習指導について。
- ・実習生のストレスについて。
- ・報告書の作成、報告会の開催。

② 介護実習を行うための会議や検討を実施（設置も含む）した

- ・先輩指導者との話し合い。
- ・予定はないが、必要性は感じる。

③ 介護実習指導を深める学びに取り組んだ（学びの深化、疑問や課題の解決、勉強会の実施等）

- ・統一した指導方法を行えるよう、勉強会を行っていく予定。
- ・自分自身で分からなかったところ、重要だと思ったところの確認。
- ・現在の実習時での問題開示。
- ・実習担当の職員間で、今後の取り組みについて話し合う。

④ 介護実習のためのマニュアル（手引き）の変更・追加・作成を行った

- ・4年程前にマニュアルの見直しを行ったがコロナもあり、それらを含めた具体的なマニュアル作成を行っていく。
- ・マニュアルはあるが、前回まで実習指導していた職員が退職し、引き継ぎが不十分なままであった。今年度実習担当した時に自分なりに作成してみたが、とても大変だった。引き継ぎできるよう資料を作成しておいたら良いと感じたので、スケジュール表や施設の基本的な情報（パンフレット以外で）を打ち込める枠組みを作成しようと考えている。
- ・今まで実習生の指導マニュアルがなかった為、作成し共有したい。
- ・マニュアルの変更、追加作業の実施。
- ・介護実習のしおりはあるが、新カリキュラムに準じた内容になっていないため、これから変更・追加等していく必要がある。
- ・上司に確認後、作成予定。



・ ICF を考慮したマニュアルを追加。

⑤ 介護実習に関する資料や教材を作成した

- ・ ICF や介護過程の資料を作成する予定。
- ・ 新カリキュラムに対応した介護実習指導研修の検討。
- ・ 今まで指導方法は個人に任せられていたが、共有したいので、資料をファイル化したい。
- ・ 上司に確認後、作成予定。

⑥ 介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた

- ・ 具体的に深いスケジュールを立てていく。
- ・ 現在ある資料を更新する。

⑦ 養成校・実習施設の間で介護実習指導を行うための話（会議）をした

- ・ 介護実習の事前打ち合わせを利用して、教員から新カリキュラムを聞き、新カリキュラムに対応した実習の意義や目的を話し合う。

⑧ 介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組みを行った

- ・ マニュアルに沿って行っていたが、新たに見直しが必要。コロナなど感染対策も含んだ体制作りを行っていく。
- ・ 実習受入チームを作る。各ユニット、フロアから職員を選出、幅広い勤務年数の職員で構成。養成校の卒業生も入れる。
- ・ 決まった職員（内容が分かる職員）が行う。
- ・ スムーズな実習指導のために、委員会の設置や指導者同士が話し合える場を設定したい。
- ・ 多職種でチームを作り、実習を行うことを提案する。

⑨ 介護実習の連携体制づくり（実習施設・養成校の間）について、研修を反映した取り組みを行った

- ・ 実習指導者の巡回時に途中経過を報告した上で、不足していると思われる部分を、後半の実習に反映できる場として活用する。
- ・ ユニットと従来型があるので、協力して実習に向けて行っている。養成校と指導者間でオリエンテーション研修を受けている。

⑩ 実習教育に登場する重層的人的要素とスーパービジョンの体制がとれている

- ・ 会議や勉強会を行っていき、各職員の理解を深めていく。

⑩ その他、介護実習等を行うために、具体的に取り組んだこと、もしくは取り組む予定であること

- ・まだ受け入れていないので、この講習後に具体的なことを決めていく予定であり、この講習を実践活用していきたい。
- ・これまで実習生をほぼ受け入れておらず、受け入れの体制ができていない状態。今回受け入れを行い、改めてマニュアル作成や職員間の連携などの見直しが必要であったと反省した。実習生に対してもっと伝えたいことがあったが、上手く伝えられず、学びになったかとても不安だ。
- ・自分自身が介護実習をしていた時の振り返り。
- ・再来年に実習生を受け入れる予定であり、それまでに受け入れ体制を整えていく予定。
- ・講義を聞き、実習生にカンファレンスを見学してもらうのも良い事だと思った。施設に戻り、聞いてみようと思う。
- ・全くの無知で、今まで実習生の受け入れを行っていた（指導者は一人いるが、何の情報も与えられなかった）。今回の研修を機に、マニュアルやスケジュールの確認または作成を行っていこうと思う。
- ・開設して2年足らずのため、まだ介護実習は行われてはいない。先月末（9月末）に「14歳の挑戦」<sup>2</sup> 事業があり、中学生3名のためのスケジュール作成を行った。ミニ実習といった感じになった。実習指導を行うためには、自分自身「わかる」「できる」が大切。また、そのためのマニュアル、プログラム、スケジュール作成も必要となる。介護実習指導は新人教育にも役立つ。今後の課題が山積み。
- ・実習指導者を増やしていきたい。
- ・まだ実際に関わっていないので、よく分からないことが多い。これから実際に関わり、上司や先輩の話聞きながら学びたい。
- ・実習マニュアルの確認と受け入れ体制の確認に取り組む予定。

---

<sup>2</sup> 「14歳の挑戦」

富山県内の中学2年生13・14歳を対象に富山県内で行われている職場体験学習事業の略称。富山県独自の取り組みで、中学生に職場体験させ、さまざまな経験を積むことを目的に行われている。1999年度から富山県内で始まり、現在では富山県内85の全ての中学2年生が参加している。事業所や福祉施設など、実際に社会の中で5日間身を置き、その一員として活動する。

## 7 - 5 介護実習の実施状況について

### (1) 具体的に取り入れた、または取り入れる予定の研修カリキュラムの内容（複数回答）

「介護過程の実践的展開」が23名で最も多く、次いで「多職種連携の実践」が17名であった。また、「未定」が16名であり、3番目に多い結果となった。

項目	人数
介護過程の実践的展開	23名
多職種連携の実践	17名
地域生活の支援の実践	7名
未定	16名

### (2) 介護実習を受け入れた、また受け入れる予定の実習生（複数回答）

「短期大学」が29名で最も多く、次いで「専門学校」が21名、「四年制大学」と「未定」が10名の順となった。

項目	人数
専門学校	21名
短期大学	29名
四年制大学	10名
未定	10名
※高校生	7名

### (3) 介護実習を行った実習生について、どのように判断をするか

（複数の実習生がいる場合、総合的な判断として回答）

「介護過程の実践的展開」と「多職種連携の実践」については、「修得できた」との回答が最も多く（21名）、次いで「わからない・判断できない」（12名・13名）の順となった。一方、「地域生活の支援の実践」は、「わからない・判断できない」が22名で最も多く、「修得できた」が9名、「未記入」が8名の順となった。

項目	十分に修得できた	修得できた	あまり修得できていない	わからない判断できない	未記入
介護過程の実践的展開	1名	21名	4名	12名	8名
多職種連携の実践	1名	16名	8名	13名	8名
地域生活の支援の実践	0名	9名	7名	22名	8名

## 7 - 6 介護実習の実施にあたったそれぞれの課題

### (1) 実習指導者の課題

- ・ 個々のスキルアップ。
- ・ 指導者としてアドバイスできるか自信がない。
- ・ 連携を取り合い、多職種を巻き込んで実習生の指導にあたれるか。
- ・ 指導マニュアルの見直し、修正とその共有。指導方法の統一。
- ・ 実習指導者のみの指導ではなく、他の職員の指導も必要となるため、協力の依頼。
- ・ 指導者、担当者間の情報共有がなかなか行えず、メモで行っていた。施設では、仕事内容を職員同士でラインでやり取りしないように決められており、共有していける時間や機会を作る必要があると感じた。
- ・ 知識不足で、実習生の質問に対して答えが返せない。
- ・ 実習生本人が持つ目標に対して、具体的にスケジュールを作る。
- ・ 実習生を指導できる職員が少なく、また通常業務が忙しく、じっくりと実習生に関われない時がある。
- ・ 実習期間中、勤務の兼ね合いで不在になることが多い。
- ・ 担当職員だけではなく、施設職員全員が実習生の受け入れについて共通した知識が必要なため、職員全員で共有すること。
- ・ 指導者が多忙で、しっかりと指導できない事も多い。
- ・ 同じ職員がつけないことがある。
- ・ シフトの関係により実習生に連続して受け持つことができず、どこまでできているのか把握できず、相談や援助が難しい。
- ・ 実習生指導にあたり、知識・技術・理解力の獲得。
- ・ あまり実習生が来所することがなく、不慣れな状態である。

### (2) 実習施設の課題

- ・ 2年後の受け入れを目指している。
- ・ マニュアルなどが無い。
- ・ 人員不足により、実習生を受け入れる体制が整わない。
- ・ ケアの質の向上、指導者との連携。
- ・ 感染対策のための実習生の休憩室の確保、マニュアルの統一化。

- ・ 人員不足および勤務者数が足りていない中での指導にストレス。
- ・ 実習についての共通認識。
- ・ マニュアルに沿った対応しかできていない。
- ・ 情報共有されず、指導者だけが理解していて、他の職員が置き去りにになっていることがある。
- ・ 対応する複数の職員間での情報共有。
- ・ 現在、施設に実習指導者が不足しておらず、受け入れが難しかった。
- ・ 職員の人員不足で、実習生への対応がしっかりできない。
- ・ 施設全体で実習指導について知り、共有する。
- ・ 職員不足のため、指導職員の实習に伴う時間の拘束がある。
- ・ 指導者が少ない。
- ・ 施設全体の協力と職員の協力。
- ・ 実習生の受け入れ体制が不十分だと感じる。

### (3) 養成校教諭・教員への課題

- ・ 施設との連携がうまく取れるか。
- ・ 実習生の情報を詳細に伝えること。
- ・ 県西部の高校生を受け入れた際、教員から「今回は介護の楽しい部分だけを見せる実習にして下さい」と言われた時、少し戸惑う事もあった。
- ・ 障害者施設で実習を行うための意味・意義を明確にする（明確な目標があれば、指導の方向がみえる）。
- ・ 新カリキュラム変更にあたって実習施設への説明を受けていないため、教員の方々から「どのような実習を求めているのか」という事も発信していただきたい。
- ・ 教員と指導者との内容の相違。
- ・ 生徒の事前情報が欲しい。
- ・ 月初めに連絡があり、月末には実習生を受け入れて欲しいと、急な話で準備が不十分になってしまう。

### (4) 養成校への課題

- ・ 同じ学校から同時に二人は来て欲しい。
- ・ 今年度のカリキュラムや手引きが施設になく、準備が進められない。

## 8. 受講者アンケート結果 第2弾（研修受講後）

第2弾のアンケートは、第1弾の結果を基に作成し、研修終了後に郵送で実施した。26名から回答があり、回収率は56.5%であった。なお、第2弾では回答者の基本属性の回答欄は設けていない。

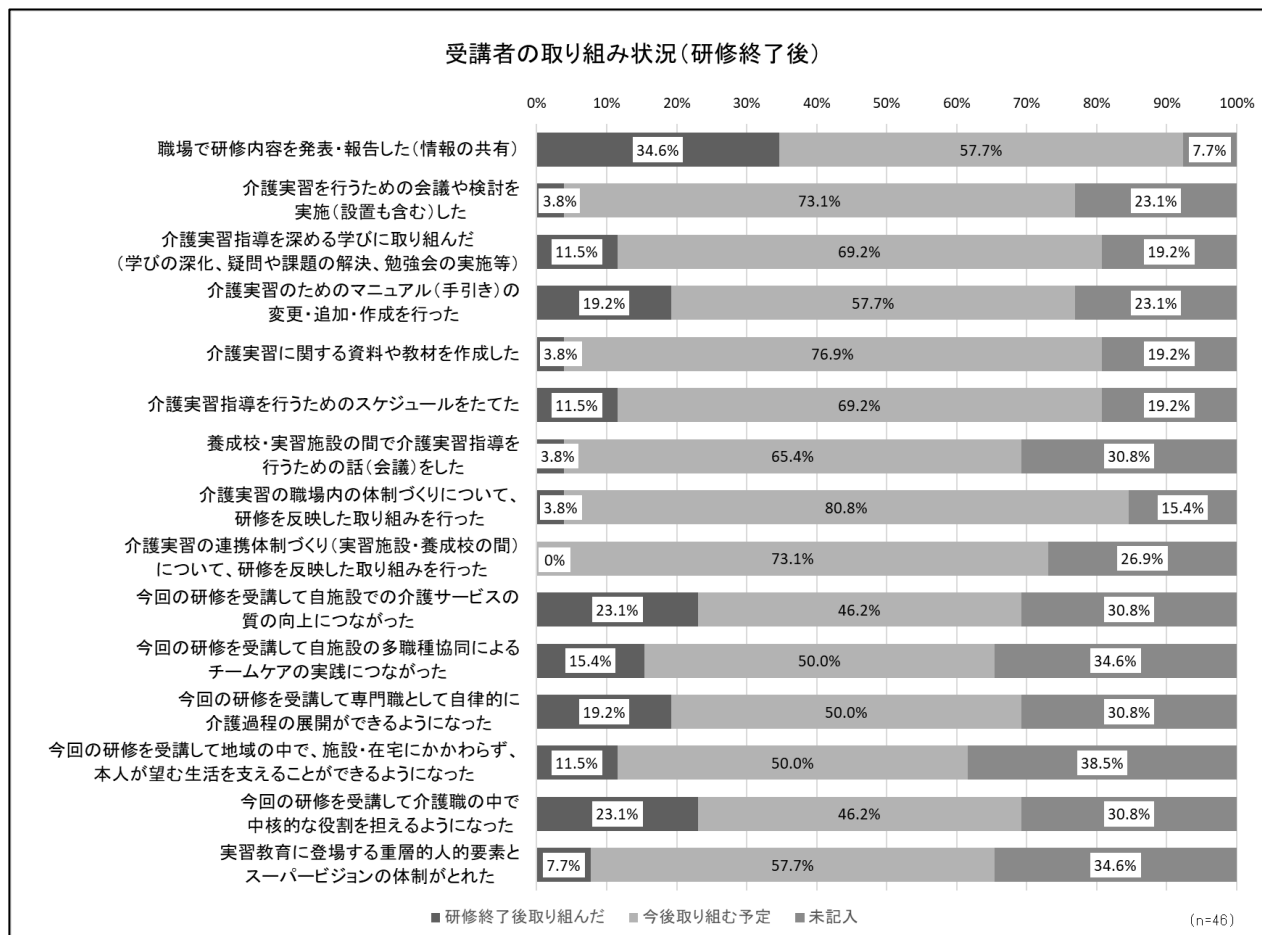
### 8 - 1 研修修了後に取り組んだか、今後取り組む予定はあるか

※第1弾と同様、各設問に対し、「具体的な内容」の記載も求めた（後述）

以下項目について、研修を受講し、現在取り組んでいるか、これから取り組む予定があるかを尋ねた。

「現在取り組んでいる」と回答した割合が大きかったものは、「職場内で研修内容を発表・報告した（情報の共有）」が34.6%、「今回の研修を受講して自施設での介護サービスの質の向上につながった」「今回の研修を受講して介護職の中で中核的な役割を担えるようになった」が23.1%であった。

また、「取り組む予定」と回答した割合が大きかったものは、「介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組みを行った」が80.8%で、「介護実習に関する資料や教材を作成した」で、76.9%であった。



## 8 - 2 具体的な内容（研修終了後に取り組んだこと）

「研修終了後に取り組んだ」と回答があった中で、内容の記載があったものを項目ごとに示す。

### ① 職場で研修内容を発表・報告した（情報の共有）

- ・研修で学んだ事、重要な点を明確にし、書面にて報告した。
- ・復命書を作成し、各部署へ回覧した。
- ・研修後に実習があり、朝礼時に実習生と職員を含め、少し報告した。
- ・研修内容をまとめ、報告書を作成した。
- ・報告書を作成し、回覧した。
- ・介護福祉士実習指導者講習会 1 回終了毎に、管理者に研修報告書を提出した。研修最終日終了後、全 4 日分の研修報告書をまとめて、職場内のグループウェア上にアップした。
- ・研修報告書を提出した。
- ・研修内容や講師の名前など、おおまかな事は報告した。

### ② 介護実習を行うための会議や検討を実施（設置も含む）した

- ・研修と実習が同時期で、学んだことをそのまま実習指導に活かした。その実習受け入れの反省・改善など全職員にアンケートを実施した。

### ③ 介護実習指導を深める学びに取り組んだ（学びの深化、疑問や課題の解決、勉強会の実施等）

- ・職員に実習受け入れ後のアンケートを実施し、その中の意見を共有し、変更していくところに行っていくようにしている。
- ・研修受講後、すぐに研修報告書作成のためにテキストを読み直し、復習した。勤務外の時間でできる範囲内の自己学習を心がけている。

### ④ 介護実習のためのマニュアル（手引き）の変更・追加・作成を行った

- ・介護のしおりの見直し。
- ・研修で教えていただいたことと教科書を見て、また実際の職員の実習後の振り返りでの意見を踏まえて、大幅な変更・追加を行った。
- ・マニュアルを作成し、施設に合ったものになるよう、話し合いを行っている。

### ⑤ 介護実習に関する資料や教材を作成した

- ・オリエンテーション用の資料を作成。

### ⑥ 介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた

- ・各フロアの日程、担当者の調整、実習内容（入浴・排泄・食事介助）を決定。
- ・実習プログラム。

⑦ 養成校・実習施設の間で介護実習指導を行うための話（会議）をした

- ・実習の流れ、実践内容や注意点、介護技術習得に向けて実習生への学びの確認。

⑧ 介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組みを行った

- ・職員みんなで実習生の指導にあたる。

⑩ 今回の研修を受講して自施設での介護サービスの質の向上につながった

- ・意識が上がった。
- ・各回、各講師陣の素晴らしい研修内容に自分の意識も上がり、それが利用者へのサービス向上に繋がった。
- ・自分自身が「その人らしい生活を送れるようにするには？」と常に考えながら、目標を掲げて達成できるよう取り組んだ。
- ・仕事での意識の変化はあったと思う。

⑪ 今回の研修を受講して自施設の多職種協同によるチームケアの実践につながった

- ・介護職だけではなく多職種とも協力して、その人にとって最も良いケアが行えるよう、情報を共有している。
- ・もともと意識して関わる様にしていたが、更に意識するようになった。
- ・研修受講後、改めて自施設が多職種協働に長けた施設であると実感し、またケアの向上、実践にも繋がった。

⑫ 今回の研修を受講して専門職として自律的に介護過程の展開ができるようになった

- ・実習生の学びを知ることにより、改めて色々と気付かされることや思い出すことがあり、利用者本位、らしさを考えることができる機会となった。
- ・ICFの視点からできる活動参加を促す。本人のニーズを見極め、根拠のある介護提供の必要性をチームに伝達、個別介護計画書見直しを行っている。
- ・研修受講後、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法を、改めて考える事ができた。今後も利用者の理解を図りながら必要な情報を収集し、介護内容や方法の計画・実施・評価をしたい。
- ・自分自身が「その人らしい生活を送れるようにするには？」と常に考えながら、目標を掲げて達成できるよう取り組んだ。

⑬ 今回の研修を受講して地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができるようになった

- ・病気を抱える利用者やその家族の望む生活を支えている。



⑭ 今回の研修を受講して介護職の中で中核的な役割を担えるようになった

- ・常に中立的な立場で物事を捉え、また発言している。
- ・上司やリーダー、後輩といった職員間の中で情報を共有しやすくできるよう、自らがつなぎ役となることができた。

⑮ 実習教育する重層的人的要素とスーパービジョンの体制がとれた

- ・医療的ケアが必要な利用者に対して、看護師や栄養士と連携、情報共有を行うことができています。
- ・上司やリーダー、他の実習指導者と実習生個々の指導のために必要な情報の共有、書類のやり取り等を行うことができています。1つのチームとして受け入れることができる様、体制を整えている。

8 - 3 具体的な内容（取り組む予定）

「今後取り組む予定」と回答があった中で、内容の記載があったものを項目ごとに示す。

① 職場で研修内容を発表・報告した（情報の共有）

- ・研修記録書の提出。
- ・職員全体会での研修報告。
- ・研修報告を提出予定。
- ・令和5年1月の会議で発表予定。
- ・上司には研修報告を行った。この後、カンファレンスで発表する予定。
- ・マニュアルの内容の報告、介護過程やICFについて、まとめて報告する予定。

② 介護実習を行うための会議や検討を実施（設置も含む）した

- ・令和5年1月の会議で検討の予定。
- ・現在技能実習生がおり、月1回で会議を行っている。
- ・日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。
- ・実習生受け入れ日の1か月前を目安に、研修報告を行う。研修内容の他に、実習生受け入れの自施設のマニュアルの説明を行う予定。
- ・受け入れチームを作る提案をする。
- ・コロナ対応で会議はできていない。実習指導者とマニュアルの内容について、個別には話し合っている。
- ・今年度は実習生の受け入れ予定がないため、来年度の予定が決まれば検討していきたい。

③ 介護実習指導を深める学びに取り組んだ（学びの深化、疑問や課題の解決、勉強会の実施等）

- ・実習指導者になるために、まず学生が何を学んできていて、実習では何を学ぶために来るの

かを理解するように取り組む予定。

- ・テキストを読んだりしているが、他の職員への報告などできていない。

#### ④ 介護実習のためのマニュアル（手引き）の変更・追加・作成を行った

- ・介護のしおりの見直し。
- ・今後マニュアルの見直しを行う予定。
- ・前年度職員数人で実習マニュアルの見直しを行ったが、今回の研修で足りない所があるなど感じ、今後も見直し・追加作成を行っていければ良いと思っている。
- ・現在、今後に向けて作成しようと考えている。
- ・講習会修了者が中心となって、マニュアルの見直し等を行う。
- ・日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。

#### ⑤ 介護実習に関する資料や教材を作成した

- ・新カリキュラムに対応した介護実習指導研修を検討する。
- ・担当者を決定し、作成の指示をした。
- ・今はまだ、改めて資料を見直している段階。
- ・実習の内容によって必要な資料は違うが、基本となる資料作りはマニュアル作成と共に作成していく予定。
- ・日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。

#### ⑥ 介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた

- ・実習プログラムの見直し。
- ・現在は受け入れ予定はない。
- ・これまでほぼ受け入れがなかったため、養成校がいつ実習期間なのか把握できていない。一貫した情報共有する機会などがあればありがたい。
- ・日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。
- ・来年受け入れ予定の実習生用に、指導する内容をもとに計画作成をすすめている。

#### ⑦ 養成校・実習施設の間で介護実習指導を行うための話（会議）をした

- ・介護実習の事前打ち合わせを利用して、教員と新カリキュラムに対応した実習の意義や目的を話し合う。
- ・これまで受け入れがなかったため、機会がなく予定もない状態。実習生のためにも、施設と養成校の打ち合わせは必須と考える。
- ・日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。

随時、管理者の意向、指示に従う。

- ・ リモート会議を行う予定。
- ・ コロナの影響で、取り組むことができていない。

#### ⑧介護実習の職場内の体制づくりについて、研修を反映した取り組みを行った

- ・ 実習指導者の巡回時、途中経過を報告した上で、不足していると思われる所を後半の実習に反映する。
- ・ 各ユニットフロアから職員を選出し、幅広い勤務年数の職員で構成した実習受け入れチームを作る。養成校の卒業生も入れる。
- ・ スムーズな実習指導のために、委員会の設置や指導者同士が話し合える場を設定したい。
- ・ 実習生受け入れを職場全体に伝え、学生への意識を持ってもらえるように取り組む予定。
- ・ 職場内体制を変更するには、なかなか個人だけでは難しい。職員が様々な雇用形態であり、専門職以外の65歳以上の方には、実習以前の利用者への対応なども指摘できない。
- ・ 介護実習施設としての役割や意義を、施設職員にも理解してもらう必要がある。
- ・ 日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。
- ・ コロナ対応で、行うことができていない。

#### ⑨介護実習の連携体制づくり（実習施設・養成校の間）について、研修を反映した取り組みを行った

- ・ 育成チームで研修内容を共有し、養成校と円滑に連携できるように、施設側としてフォーマットを作成する予定となっている。
- ・ 受け入れる体制をしっかり整えてから、実習生を迎えたい。
- ・ 施設側ではマニュアルも変更し、連携体制作りに取り組むたいが、具体的にどのような行動が必要かがわからない。
- ・ 日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。

#### ⑩今回の研修を受講して自施設での介護サービスの質の向上につながった

- ・ 職員の意識づけを始めていき、向上につなげたいと考えている。
- ・ 常に質の向上は意識しているが、人手不足やコロナの影響で、現在行うのは難しいと思っている。
- ・ 研修や実習生受け入れを通して、客観的に自施設を見ることができ、アンケートを実施したことにより様々な意見が出て、変化していくことの必要性を感じ、今後も実習生を受け入れる施設であるよう、質の向上に取り組んでいく。

⑪今回の研修を受講して自施設の多職種協同によるチームケアの実践につながった

- ・多職種協同の必要性を今一度共有し、チームケアの実践につなげていきたいと考えている。
- ・作業場と生活支援側で利用者に対する対応など違いが見えて、情報共有の必要性を感じた。

⑫今回の研修を受講して専門職として自律的に介護過程の展開ができるようになった

- ・一部の利用者からケアの見直しを含めて行っていく。
- ・チームでの取り組みとしては、まだまだ課題はあるが、個々では意識して取り組むことができるようになった。

⑬今回の研修を受講して地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができるようになった

- ・今までよりも利用者の気持ちになって対応していく意識を持った。
- ・本人が望む生活を支えようと努力はしている。
- ・今後支えることができるよう、多職種と協同し取り組みたい。
- ・利用者の望む生活を支えることができるよう、日々関わりを持ち、支援をしている。

⑭今回の研修を受講して介護職の中で中核的な役割を担えるようになった

- ・実習担当者になる。
- ・中核的な役割の必要性について学んだので、役割を担うように、またチームで共有しながら次期中期的な役割を担う人材を育成していく。
- ・中核的な役割を担えるように、今後も頑張らなくてはいけないと思っている。

⑮ 実習教育する重層的人的要素とスーパービジョンの体制がとれた

- ・実習指導者の委員会の設置。
- ・日々の業務遂行が最優先であり、介護実習を行うための会議や検討は、まだ実施していない。随時、管理者の意向、指示に従う。

#### 8 - 4 その他意見

⑪今回の研修を受講して自施設の多職種協同によるチームケアの実践につながった

- ・もともと多職種との連携はできていると思うので、特に何も変えていない。

⑯今回の研修を修了して、その他、介護実習等を行うために、具体的に取り組んだこと（取り組む予定であること）。

- 受講生受け入れ含む体制づくりについて
- ・来年度に向けて、今後考えていきたい。
- ・再来年より取り組む予定。
- ・実行委員会を作り、みんなと情報共有をしていきたい。

- ・ 実習を行うにあたり、施設全体として実習生を受け入れる意識作りを設け、重層的な体制作りを構築していきたいと考える。実習生が就職先に選んでもらえる施設にしていく必要も重要であり、その点に関しても環境改善等を図りながら取り組んでいきたい。

#### ●マニュアルの作成および整備

- ・ マニュアルの作成に取り組んだ。
- ・ 実習マニュアルの変更や追加。環境作り。職員間での意見交換。
- ・ 介護実習科目の新たなカリキュラムや学生の現状等について、しっかりと理解した上で、実習マニュアルや介護方法マニュアル等の整備・見直しをし、指導方法の統一化を図ることや、全職員に対する情報の共有化に取り組む必要がある。
- ・ 介護実習マニュアルの作成、介護実習スケジュールの作成に取り組んでいきたい。現在、高校から実習生を受け入れており、研修で学んだ事を活かしてコミュニケーションを図っている。
- ・ 介護実習マニュアルの作成、介護実習スケジュールの作成に取り組んでいきたい。現在、高校から実習生を受け入れており、研修で学んだ事を活かしてコミュニケーションを図っている。
- ・ 実習指導を行って見ないと分からないが、マニュアルの見直しは行うと思う。

#### ●多職種との連携

- ・ 多職種連携。
- ・ 多職種に、介護実習に必要な ICF の内容や、介護過程についての理解を深めるために、定期的に勉強会を開催していきたい。

#### ●実習生との関わりかたについて

- ・ 実習生の思いや日々の目標に向けてサポートできるよう、担当者だけではなく、チーム全体で支えるための体制作りを行っていきたい。
- ・ 学生への関わり方や実習に来ているという事を、職員同士が意識できるような取り組みを行いたいと思う。実習指導をしたことがあるないに関わらず、一人一人が学生に関わろうとする態度が必要だと思ったので、そのような取り組みを考えていきたいと思っている。
- ・ 今後、実習生を受け入れる際には、実習生が学ぼうとしていること、考えていること、望んでいることを理解し、環境を整えるよう施設全体で準備し対応したい。

#### ●職員の意識向上

- ・ 実習指導者ではなくても、職員一人一人が実習に対する意識を高めることができるように、取り組む。
- ・ 今後、ケアカンファレンスなどを通して、指導の大切さや寄り添う姿勢などを伝えていきたい。一人一人の力が必要で、職員みんなが高い意識を持ち、指導していけるような環境作りをしていきたい。

・ 研修第1日目から報告書を作成・提出し、最終的に4日分の研修報告書を職場のグループウェア上にアップした。日々の業務遂行が最優先なので、研修内容を職場内にて発表・会議・検討など、まだできていない状況。自職場は、看多機という、医療依存度の高い人や退院直後で状態が不安定な人、在宅での看取り支援など、住み慣れた自宅での療養を支える介護保険サービスである。主治医との連携のもと、医療処置も含めた多様なサービスを提供しているため、日々繁雑。利用者の状態変動も激しいため、常に細心の注意を払っている。開設はまだ2年足らず。軌道調整中で、実習生の受け入れ体制もこれから。今回の研修は、新人職員の育成のためにもなると自ら受講を希望した。実習生の指導は、実習指導者のみが行うわけではない。日常生活支援技術を直接行っている職員みんなが指導しなければならない。「教えることは、学ぶこと」であり、実習指導を通して実習生と実習施設職員の双方が共に成長し、学び、育む環境を整えなければならない。今回の研修を少しでも活かすことができるよう、管理者、上司の意向に沿いながら、計画検討していきたいと思っている。

#### 8 - 5 介護実習指導研修（介護実習指導者の養成研修）についての要望等

・ 講義やグループワークだけで、実際に実習指導者になった時に行動できるのかと感じた。  
・ 伝えたいことがたくさんあるんだと思ったが、もう少しゆっくり話して欲しい。詰め込みすぎだなと感じた。南砺市から富山市に4日間も通うのは大変だった。高岡市辺りで開催してもらえると助かる。

## 9. 管理者へのアンケート結果

管理者へのアンケートは、研修修了後に郵送で実施した。受講者へのアンケート（第2弾）に同封し、受講者のアンケートと合わせて返送するよう依頼した。27名から回答があり、回収率は58.6%であった。

### 9 - 1 介護福祉士実習指導者講習会修了者に対し、今後期待する自職場における役割

- ・ 実習生受け入れの際、先輩指導者と協力して、計画・指導・実習生の立場に立った助言をして欲しい。
- ・ すでに修了している実習指導者に、新カリキュラムに対応した実習指導を共有して欲しい。
- ・ 実習指導者、指導的スタッフ。
- ・ 実習指導者として実習生の規範となるよう、日々精進しながら周囲と協力して行って欲しい。
- ・ 今後、実習指導者を統括し、実習生の規範となるような存在となっていただきたい。
- ・ 今後は施設において実習指導者の一員としてサポートし、他職種協働のあり方などを実習生や新人職員に、学んでもらえる場を整備する一端を担えるように。
- ・ 共通した認識を持ち、実習指導を行っていくこと。また、それが自職場での職員育成法にもつながると考えている。
- ・ 新人職員の育成や実習生の指導など、実習指導者として中堅的な役割を担って行ってほしい。
- ・ 実習指導者として後進者の育成を行いつつ、より自身の能力の向上に取り組んでいただきたい。
- ・ 利用者個々に必要なケアが判断できる。実習生にも、なぜそのケアが必要なのか説明できる。新任職員のプリセプターとしても活動してほしい。
- ・ 実習生の担当と、他職員への実習受け入れのための指導。
- ・ 介護福祉士の育成と指導の担当。
- ・ 実習指導者として自覚を持ち、法人のためにできることを模索しながら、学生受け入れの体制整備に尽力いただきたい。
- ・ 将来、介護福祉士という職種を担っていく人材（学生）を育てる役割があると思われる。
- ・ 実習生の指導はもちろんだが、自施設においては、新人職員の指導やOJTで技術等の指導を行ってほしい。
- ・ 指導者として人材を育成するとともに、自らを振り返ることで、より良い支援者となることを期待したい。
- ・ 実習生に対して適切な指導・助言。
- ・ 実習生と職員の架け橋。
- ・ 指導者自身が、キラキラしたオーラで楽しく働いている姿を、実習生に見て欲しい。
- ・ 実習生の不安を少しでも解消するために、話しかけやすい雰囲気作りや、コミュニケーションの取り方を職員に伝えて行って欲しい。
- ・ 実習を通して老人保健施設についての在宅復帰のための取組、メリット・デメリットを伝え、実習生が老健に就職希望をしてもらえるような指導を期待したい。

- ・ 実習生へのより良い指導により、介護人材の育成につながって欲しい。

## 9 - 2 介護実習指導者に求める知識や技術、実践力

- ・ 実習生とのコミュニケーション力、実習生の立場に立った助言。
- ・ 地域共生を視野に入れた介護技術の指導。
- ・ 学生のモチベーションを向上させる記録力、現場で活かせる ICF の視点。
- ・ 対象者に最適な対応ができる判断力。
- ・ 学習した知識および技術の向上確認を行うとともに、さらなる自己成長はもちろんだが、スタッフ同士の信頼関係や後輩を育てる視点を持つことが大切だと考える。
- ・ 自施設の機能と役割を理解し、実習指導に活かすこと。介護職として働いていることの魅力や働きがい伝えることができること。
- ・ 基本技術を実践する事ができ、何を行うとどうなるかを具体的に伝え、何のために行っているか理由を明確に説明することができる。
- ・ 基本的な知識や技術に加えて、対象者に最適な対応を実践できる判断力。
- ・ 知識については、介護保険制度の理解。技術については、基本をしっかり応用に対応してほしい。実践力については、介護過程の展開方法の理解と実施ができる。
- ・ 実習生とコミュニケーションを図る能力と、コミュニケーションを図るための時間を作ることができること。
- ・ レベルアップ。人材育成。
- ・ 介護過程の展開を自らも実践し、現場スタッフへ知識、技術ともに指導できる指導者になってもらいたい。
- ・ 必要な知識・技術を習得させるだけではなく、指導者の経験をもとに、自ら学ぶ・考えるポイントを伝えて欲しいと思う。
- ・ 根拠に基づいた介護技術を、利用者の状態に基づいて説明・指導できるように、力を身に付けて欲しい。
- ・ 技術はもちろん、論理的に指導にあたること。
- ・ 多職種協働の実践や実習生のコミュニケーション能力の向上。
- ・ 実習生が楽しく充実した時間が過ごせるよう、職員との調整を図ることのできる力。
- ・ 介護には根拠があることを、実習生が理解しやすい方法で伝えること。
- ・ 学生が実習中に思ったこと、気付いたことを基に、次の実習につなげることができる助言ができれば良いと思う。
- ・ 当施設の講習会修了者はリーダーシップもあり、基本的介護知識・技術は身につけており、指導者に向いていると思い、色々な業務も任せている。
- ・ 怒りの感情を出すことなく、冷静にかつ温かく指導して欲しい。

## 9 - 3 研修参加職員について

設問項目に対し、該当する場合は○をつけるよう求めた。「実習指導を通して、介護職の中で中核的な役割を担えるようになった」が12名で最も多く、次いで「研修参加後、仕事に対してのモ



モチベーションが向上した」が9名であった。

項目	該当する
実習指導を通して、専門職として自律的に介護過程の展開ができるようになった	8
実習指導を通して地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができるようになった	2
実習指導を通して、介護職の中で中核的な役割を担えるようになった	12
研修参加後、仕事に対するモチベーションが向上した	9
計	31

#### 9 - 4 具体的な内容

【9 - 3】の項目について、内容の記載があったものを項目ごとに示す。

##### ①実習指導を通して、専門職として自律的に介護過程の展開ができるようになった

- ・ 介護福祉士という専門職ならではの視点で、介護過程の展開を行うことができる。
- ・ 利用者本位であり、研修で学ぶことにより、学生の学びを知る機会となった。
- ・ 利用者としてしっかり向き合うことができた。
- ・ 個別介護計画を見直し、利用者の自律に注力を図っている。
- ・ 常日頃から、利用者の立場に寄り添って介護を行うことができ、自立・自律の両方の面を考え、介護過程の展開を行うことができている。
- ・ 実習目標を理解し、実習生が目標を達成できるよう対象利用者を選定し、内容や場面を計画していた。

##### ②実習指導を通して地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができるようになった

- ・ その都度、状況や状態、家族、他サービス等の多方面から、利用者の生活環境を考え支えているが、更に意識が向上したと思われる。

##### ③実習指導を通して、介護職の中で中核的な役割を担えるようになった

- ・ 実習指導は大変重要な役割であり、施設を代表して指導者を任せることができる。
- ・ 業務の経験を重ね、通年業務の把握ができ、日常業務以外に新人スタッフへの指導や、リーダーの補佐的な役割を担うようになった。
- ・ 学んだことを活かし、より落ち着いて行動できている。以前からではあるが、コミュニケー

ションを介護職員の間で取り、良好な関係を築いている。

- ・プリセプターとしての新人職員の育成の取り組み。介護ロボット（眠りスキャン・ネオスケア）導入に伴い、使用方法・内容の説明・データ収集などの取り組み。
- ・一つ一つの行動、指導のための知識が身に付いたことにより、自信がついた気がする。
- ・職員の育成担当で、指導と評価を行ってもらっている。
- ・今回の講習会を終えて、指導的立場、リーダー的存在であることの自覚を持ってもらえたと思う。
- ・周囲の職員と課題を共有し、解決を図ろうとする中で全体的に同じ方向をむくことができ、共感できた。
- ・後輩の良き相談役、上司とのパイプ役となって、チームを支えている。経験値も高く、職員の見本になるようなケアができている。

#### ④研修参加後、仕事に対するモチベーションが向上した

- ・今回の研修で、人に介護を伝える事を学ぶことができたと思う。
- ・落ち着いて行動し、相手を想っての行動も以前から引き続けているが、研修中に実習生を担当し、より余裕を持ちながら担当することができていた。
- ・自分自身のスキルアップにつながり自信がついた。行動に責任が持てるようになった。
- ・実習指導者としての自覚を持つことができたと思う。
- ・どんなに忙しくても、笑顔で不満を漏らさない。実習の効果が得られるよう、取り組んでいる。

#### 9 - 5 介護実習指導研修（介護実習指導者の養成研修）についての要望等

- ・施設内で指導は行えず、情報の共有も辛うじて行えるのみ。今後もグループワークなど、内容の濃い研修を希望。
- ・リモートでの研修があれば参加しやすいのでは。
- ・上司へのアンケートは必要ないのではないかと。
- ・このアンケートの質問は重い気がする（早すぎる、すぐには変わらない）。せめて実習前に目標を聞き、達成できれば良いと思った。